

## 教育実践総合センター平成19年度活動概要

### 1. 構成員

センター長（兼任）

教授 若元澄男

専任教員

学校教育相談実践部門

教授 岡 直樹 准教授 栗原慎二

教育実践研究開発部門

准教授 神山貴弥

実務家教員

准教授 時永益徳 准教授 松本 徹

客員教員(年度内の4期を分任)

齋藤美由紀・半田明美・河野龍彦・

長見典明（いずれも広島県立教育センター）

事務補佐員 山本佐織・竹ノ中亜由美

### 2. 現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(現代GP)

「子どもの心と学び支援プログラムの展開 「にこにこルーム」を核とした学生参加型地域サービスと教員養成」

### 3. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

#### (1) 子どもの心と学び支援フォーラム・・・現代GP関連事業

「心と学び支援のためのアセスメント」

期日：平成20年2月16日（土）

場所：広島大学教育学部第1会議室

講師：バーンズ亀山静子

（ニューヨーク市スクールサイコロジスト）

対象：教育関係者全般

参加者数：58名

《本フォーラムでは、レッテル貼りに終わらず支援につながるアセスメントとは何か、また、支援を提供するはずの教師が子どもにとっていちばんの障害にならないために、気をつける点は何かなど、子どもを支援するアセスメントのあり方について解説を受けた。》

#### (2) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代GP関連事業

「学習支援の実際」

期日：平成19年6月2日（土）

場所：広島大学教育学部第1会議室

講師：岡 直樹（広島大学大学院教育学研究科・教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：43名

《本セミナーでは、「わからない」「やる気がない」などの学習面での様々な問題のある児童生徒への支援として、認知カウンセリングを取り上げられた。そして、認知構造の理解、忘れにくい学習、学習意欲、図の利用、教訓帰納、学習方法などの観点から、認知カウンセリングの実際についてケースを紹介しながらの解説を受けた。》

#### (3) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代GP関連事業

「品性・品格を育む生徒指導：Character Educationの理論と実際」

期日：平成 19 年 10 月 20 日（土）  
場所：広島大学教育学部 L104 教室  
講師：青木多寿子（広島大学大学院教育学研究科・准教授）  
対象：教育関係者全般  
参加者数：20 名

《本セミナーでは、アメリカで実践されている品性・品格の育成を目指す Character Education とはどのようなものが解説され、またその理論的背景と実践例の紹介を受けた。》

(4) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代 G P 関連事業

「学校現場におけるソーシャル教育の実際」

期日：平成 20 年 1 月 27 日（日）  
場所：広島大学教育学部 L102・L104 教室  
講師：相川充（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科・教授）  
対象：教育関係者全般  
参加者数：76 名

《本セミナーでは、ソーシャルスキル教育の理論的背景について講義を受けた上で、学校現場におけるソーシャル教育の具体的な進め方について演習を通して解説を受けた。》

(5) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代 G P 関連事業

「教室での見立て」

期日：平成 20 年 2 月 16 日（土）  
場所：広島大学教育学部第 1 会議室  
講師：バーンズ亀山静子  
（ニューヨーク市スクールサイコロジスト）  
対象：教育関係者全般  
参加者数：58 名

《実際に教室にいる子に関して、何をポイントに見ていけばいいのか、固定観念から抜け出してどのようにその子の学習上の特性を見極めるか、そしてそれをどのように指導に活かしていくかをケーススタディを使いながら、各自の現場で応用できるよう進められた。》

(6) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代 G P 関連事業

「児童・生徒の友人関係の理解」

期日：平成 20 年 2 月 18 日（月）  
場所：広島大学教育学部 L304  
講師：有倉巳幸（鹿児島大学教育学部・准教授）  
対象：学部生・大学院生  
参加者数：15 名

《現在の子どもたちの友人関係の特徴を押さえた上で、友人関係の希薄さや排他性の問題について、実際の調査データに基づきながら、説明を受けた。また、社会心理学的見地からみたいじめの生起過程についての解説があり、いじめに対する対処法等が示された。》

(7) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代 G P 関連事業

「学習とアセスメント」

期日：平成 20 年 2 月 20 日（水）  
場所：広島大学教育学部第 3・4 会議室  
講師：バーンズ亀山静子  
（ニューヨーク市スクールサイコロジスト）  
対象：学部生・大学院生  
参加者数：42 名

《学習の特性に関して学び、「子どもたちの学習のスタイルは一様ではない」ということを

基点にして、「指導する」教師から「学習を支援する」教師へと自己変革するための研修が行われた。》

(8) 子どもの心と学び支援セミナー・・・現代GP関連事業

「カウンセリングとアセスメント」

期日：平成 20 年 2 月 21 日（木）

場所：広島大学教育学部 L304

講師：バーンズ亀山静子

（ニューヨーク市スクールサイコロジスト）

対象：学部生・大学院生

参加者数：26 名

《アセスメントの結果を活かした対応をさまざまな側面 情緒面、学習面、社会性、対人関係、家族関係など から考え、実際に支援計画をたてる実習を行なった。また、子どもへの直接的また間接的な支援を提供する上でスクールサイコロジストの役割とは何かを検討した。》

(9) 教育相談研修会

「市の教育相談に関わって - 教育相談員 2 年目の体験から」

期日：平成 19 年 7 月 4 日（水）

場所：教育学部 L204

講師：津山裕美（広島市児童相談所）

対象：学部生・大学院生

参加者数：60 名

《WISC の使用方法や解釈をする際のポイント，保護者との面接の際のポイントなどを研修した。発達障害を抱えた子どもを初めて担当した際に遭遇しがちな場面や問題を想定して研修が進められた。》

(10) 第11回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「子どもたちの健やかな成長を目指す学校評価を考える 第三者評価の取組に対する期待と展望を中心として - 」

期日：平成 19 年 6 月 23 日（木）

場所：広島市役所本庁 2 階講堂

講演者：セイントレジェ，パミラ・キャスリン

（広島大学大学院教育学研究科・客員教授）

三浦敏幸（広島市教育委員会学校教育部企画課・指導主事）

光原達夫（広島市立幟町中学校・校長）

コメンテーター：長尾真文（広島大学教育開発国際協力研究センター・教授）

コーディネーター：林孝（広島大学大学院教育学研究科・准教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：110 名

《子どもの成長という視点に立った第三者評価のあり方について、広島市がどのように進めているのか、第三者評価を受けた学校側からみえる課題は何か、このことを先進的に進めているオーストラリア・ヴィクトリア州の実態はどのようなものかについて、それぞれの立場から話題提供があり、議論が行われた。》

(11) 第12回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「教員養成の高度化を考える - アメリカでの大学院改革を参考にして - 」

期日：平成 19 年 12 月 13 日（木）

場所：広島大学教育学部第3・4会議室

講演者：ルイーゼ・マッカーティ（広島大学大学院教育学研究科・客員教授）

坂越正樹（広島大学大学院教育学研究科・研究科長）

松本徹（広島大学大学院教育学研究科・准教授）

司会：樋口聡（広島大学大学院教育学研究科・教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：30名

《教職大学院構想を受けて、教員養成のための実践的内容を中心にした新しい形の大学院教育が議論されているが、本フォーラムではこのホットな話題を取り上げ、アメリカでの実情を参考にしながら、教職高度化の行方について話題提供ならびに議論が行われた。》

#### (12)第6回保幼小連携フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設との共催）

期日：平成20年2月2日（土）

場所：広島大学教育学部L102

講演者：湯川秀樹（文部科学省初等中等教育局幼児教育課・幼児教育調査官）

話題提供者：景山美百合（東広島市立御園宇幼稚園・教諭）

白浜陽子（東広島サムエル保育園・教諭）

中野竜也（東広島市立八本松小学校・教諭）

田中千浪（東広島市立八本松小学校・教諭）

対象：教育関係者全般

参加者数：80名

《本フォーラムでは、保幼小連携のあり方について、連携を実践している保育園、幼稚園、小学校からそれぞれ実践の報告がありその成果や課題が示された。また、湯川氏からは今後の保幼小連携のあり方についての指針が示された。》

#### 4. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談，認知カウンセリング，学習指導，学習支援，アセスメント等に関する講演や演習の指導

期間：通年（160回）

対象：主に教員，保護者

人数：約8300名

「キャリア教育とキャリアカウンセリング」平成19年度広島県新任進路指導主事研修講座，4/20，100名

「平成19年度初任者研修に係る校外研修」大分県教育センター，5/17

「ピア・サポートの理論と実際 - 子どもとつくる生き生きとした学校 - 」日本学校教育相談学会埼玉支部研修会，5/20，50名

「困難な事例に対する関わり」千葉県高等学校教育相談研究会春季総会・研修会，5/25，150名

「子どものサインをキャッチする」井口台中学校区合同研修会，5/28，50名

「尾道市立因北中学校校内研修会」6/1，6/26，8/30，10/12，1/22

「平成19年度県立学校等教職経験5年経過教員研修会」福岡県教育センター，6/20

「ブリーフ・カウンセリングを生かした問題行動への対応」独立行政法人教員研修センター生徒指導指導者養成講座，6/20，120名

「豊かな感性を培う音楽科授業の創造」北広島町小学校音楽科教育研究会，6/20，15名

「音楽科授業における評価の理論と実際」京都市立西京極小学校，6/29，30名

「学力分析に基づく教員一人一教育研究」尾道市立高西中学校研修会，7/25，10/17，各22名

「教育評価の実施方法及び分析に関する演習」福山市立駅家東小学校，7/31，20名

「児童生徒の良好な人間関係を育むために：子どもの社会的欲求についての見立てと欲求を充足する手だて」平成19年度庄原市内小・中学校生徒指導主事研修会，8/6，40名

「音楽づくりのワークショップ」 竹原市小学校音楽科教育研究会，8/22，20名  
 「学級集団へのアセスメントと集団づくりの実際」 広島県立教育センター，9/7，60名  
 「ワークショップ型授業の理論と演習」 広島県立芦品まなび学園高等学校，9/12,30名  
 「広島市立安佐北中学校・高等学校校内研修会」 10/2  
 「キャリア教育の意義について」 呉・賀茂教育事務所進路指導主事研修会，10/3，200名  
 「子どもたちを理解するためにいまできること～アセスメント手法の技術～」 子ども教育支援財団，10/14，50名  
 「伝え合い、深め合うコミュニケーション能力の育成」 東広島市立御園宇小学校，10/11，20名  
 「小学校音楽コンクール」 尾道市内小学校，10/24，500名  
 「鑑賞指導の実際とポイント」 広島県立府中東高等学校，11/1, 10名  
 「中学校音楽コンクール」 尾道市内中学校，11/7，500名  
 「わかる・わかり合う授業づくり」 廿日市市立廿日市中学校研修会，11/12(25名),12/7(50名)  
 「子どものメンタルヘルスについて」 広島県学校保健会，広島県教育委員会主催・広島県学校保健研究協議大会，11/15，250名  
 「良質な人間関係づくりを図る積極的生徒指導の推進」 広島市教育委員会主催生徒指導協議会，11/16，250名  
 「これからの学校教育相談のあり方」 静岡県総合教育センター教育相談短期研修，11/19，60名  
 「ピア・サポートの理論と実際 - 子どもと創る生き生きとした学校」 沖縄県北中城村・幼小中高教職員研修会，11/22，120名  
 「広島市立上温品小学校校内研修会」 11/27  
 「いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進にかかわるシンポジウム」 広島市教育委員会，2/1，400名  
 「豊かに深く感じ考える力の育成 表現力の大切さ」 昭島市立中神小学校，2/7，340名  
 「学習規律の確立による学力向上」 三次市立三良坂中学校研修会，2/13，17名  
 他

## 5. 研究活動

### A. センタープロジェクト研究

- (1)研究科長裁量経費による研究(研究代表者・分担者)「小学生・中学生の学校適応感に関する研究」
- (2)研究科長裁量経費による研究(研究代表者・分担者)「学校と家庭とが共同して子どもの心を育てるための情報共有のあり方とその効果についての研究 - 規範意識の実態や学校文化への理解度を中心に - 」
- (3)広島市教育委員会との共同研究「いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進事業の取組」
- (4)広島県立教育センターとの共同研究「児童生徒等の規範意識の醸成を促す生徒指導の在り方に関する研究」

### B. 附属学校・公立学校との共同研究

- (1)附属三原学園との共同研究(研究分担者) 「幼小中一貫の教育力を生かした社会のグローバル化・高度情報化・超少子化の進展に対応する国際的コミュニケーション能力の育成を中心とした21世紀型学校カリキュラムの研究開発」
- (2)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究(研究分担者)「かかわる力を育む幼小一貫の道徳教育カリキュラム開発のための基礎研究(3)」
- (3)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究(研究分担者)「生活科におけるキャリア教育の構築」

## C. その他外部資金導入による研究

- (1) 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）「子どもの心と学び支援プログラムの展開 - 「にこにこルーム」を核とした学生参加型地域サービスと教員養成 - 」
- (2) 米日財団奨学寄付金研究（研究分担者）「グローバル・パートナーシップを推進するための人材育成およびプログラム開発 - 広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター設立に向けて - 」
- (3) マツダ研究助成（研究分担者）「教員志望の大学生の学びのコミュニケーション形成の支援に関する研究 - 大学を利用した教育的地域貢献活動の実践と評価 - 」

## 6. 教育・社会貢献事業

### (1) にこにこルーム（学校心理教育支援室）・・・現代GP関連事業

#### 学習相談

にこにこルームの学習相談に参加した学生は 21 名であった。

前期(2007年5月9日(水)から2007年7月25日(水))の活動

東広島市内の小学校 9 校で、4 年生以上の児童に対し、募集の案内を配布した。そして、4 月 24 日、25 日に電話による受付を行った結果、応募者は 48 名であった。その中から、12 名(新規 11, 継続 1)の小学生を抽選で選んだ。

この 12 名の小学生に対して、5 月 9 日（開講式として、保護者を交えオリエンテーション）から、7 月 25 日(修了式)まで、毎週水曜日に認知カウンセリングを 10 回行った。時間は小学生については、午後 5 時 30 分から 7 時 20 分までの 110 分で、算数の認知カウンセリングを 60 分、遊びを 45 分、保護者を交えた帰りの会を 5 分行った。この 110 分のセッション終了後、毎回ケース検討会を行った。

後期(2007年10月31日(水)から2008年2月20日(水))の活動

東広島市内の小学校 9 校で、4 年生以上の児童に対し、募集の案内を配布した。そして、10 月 15 日、16 日に電話による受付を行った結果、応募者は 27 名であった。その中から、13 名(新規 11, 継続 1)の小学生を抽選で選んだ。

この 15 名の小・中学生に対して、10 月 31 日（開講式として、保護者を交えオリエンテーション）から、2 月 20 日(修了式)まで、毎週水曜日に認知カウンセリングを計 12 回行った。時間は、小学生については午後 5 時 30 分から 7 時 20 分までの 110 分で、勉強を 60 分、遊びを 45 分、保護者を交えた帰りの会を 5 分行った。この 110 分のセッション終了後、毎回ケース検討会を行った。

#### サマー・セッション

8 月 6 日～ 8 日の 3 日間、1 回あたり 90 分、小学生 1 名を対象に認知カウンセリングを行った。

#### 保護者の面接

認知カウンセリング来談者のうち、子どもへの認知カウンセリングと平行して、母親の面接も行った。面接回数は 6 回であった。認知カウンセリング来談者以外に、保護者 1 件の面接を行った。

#### 学校臨床相談

11 月より、にこにこルームの活動の一環として、臨床心理士による臨床相談活動を開始するとともに、支援員らのケース検討会およびセミナーを定期的開催した。

臨床相談（毎週木曜日・土曜日に実施日）

総来談件数 63 件

延べ相談ケース数：19（2/19 現在）

定期ケース検討会（原則木曜日 18:30～20:30）

延べ 11 回（2/19 現在）

## (2)学校コンサルテーション活動

概要：公立学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（52回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約100名

## (3)地域教育実践ボランティアネットワーク事業

本事業は、「教師に必要な幅広い社会的視野と実践的指導力の育成」および「市民としての自覚形成と街づくりへの参画」を目的として、学校や各種施設等からの学生ボランティア派遣の要請にこたえ、希望する学生を募集し、派遣する制度である。本年度は、5件の派遣要請を受け、延べ105名の学生を派遣した。

## (4)フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員10名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織し、その運営にあたっている。

### 活動の趣旨

「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成9年度より活動を開始して、19年度は11年目である。

### 活動の形態

19年度は「地域教育実践」の授業として通年で開講した。

### 実施内容

1) 活動は、H19.4からH20.2にかけて、月例活動8回、宿泊研修（1泊2日）1回、大学内シンポジウム1回を行った。月例活動の活動時間帯は、午前10時から午後4時。

2) 参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約100名。児童は東広島市立小学校37校から募集した138名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする20名。

3) 児童9名と学生5名で1班とし、16班を編成し、芸術（4班）、工房（4班）、科学者（4班）、タイムトラベル（4班）の4グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

## (5)学外から委嘱された委員等

- ・日本教育心理学会，理事
- ・日本教育心理学会研究委員会，委員長
- ・日本心理学会，専門別議員（第1部門）
- ・学会連合資格「学校心理士」認定運営機構，認定委員
- ・『教育心理学研究』編集委員会，常任編集委員
- ・日本教育大学協会教育心理部門副代表
- ・福津市学力向上委員会，委員長
- ・東広島市青少年問題協議会委員
- ・東広島市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会委員長
- ・東広島地域キャリア教育推進委員会委員
- ・広島市学校評価システム第三者評価検討会議評価専門委員
- ・国立教育政策研究所「学力の把握に関する研究指定校事業」企画委員
- ・小学館『教育技術』編集委員
- ・日本心理学会代議員
- ・日本ピア・サポート学会研究紀要査読委員
- ・東広島市新・学校教育レベルアッププラン推進委員会委員
- ・広島市立古田中学校学校協力者会議委員

7．研究紀要の刊行  
学校教育実践学研究（第14巻）の刊行